

第 2 部

計画推進の基本方針

【趣 旨】

基本理念に掲げる「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向け、計画を推進するための基本方針を示すものです。

【構 成】

- ☆ 新型コロナウイルス感染症や自然災害など未曾有の危機への先手の対応
- 1 県民幸福度 No.1 への挑戦
- 2 県民とともに挑戦する「新しい茨城」づくり
- 3 未来を展望した政策展開
- 4 戦略的な行財政運営
- 5 目標実現に向けた政策の効果検証・改善の徹底

第2部 計画推進の基本方針

ポストコロナをしっかりと見据えた、「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向け、計画を推進するための基本方針を示します。

☆ 新型コロナウイルス感染症や自然災害など未曾有の危機への先手の対応

- 県民の命と健康、暮らしを守るため、先手先手で必要な対策を講じ、状況と対策の効果の分析を常に行いながら、難局を乗り越える不断の努力を続けます。

1 県民幸福度No. 1への挑戦

- 本県では「県民一人ひとりが未来に希望を持つことができ、自身のなりたい自分像に向かって一歩でも二歩でも近づいていけるよう、挑戦を続けられること」を幸せと考え、本計画の推進により、県民の皆さんが幸せを実現できる環境づくりを進めます。
- 幸せの実現に向けた様々な取組をふまえ、そのような環境の整備・充実状況を把握するため、新たに『いばらき幸福度指標（仮称）』を導入し、県民幸福度No.1を目指します。

2 県民とともに挑戦する「新しい茨城」づくり

- 国、市町村、民間企業、関係団体など多様な主体との緊密な連携のもと、県民の皆さんとともに「新しい茨城」づくりに挑戦します。
- 前例にとらわれない発想により、失敗を恐れず果敢に挑戦することで、県民の皆さんとともに新しい時代を切り拓いていきます。

3 未来を展望した政策展開

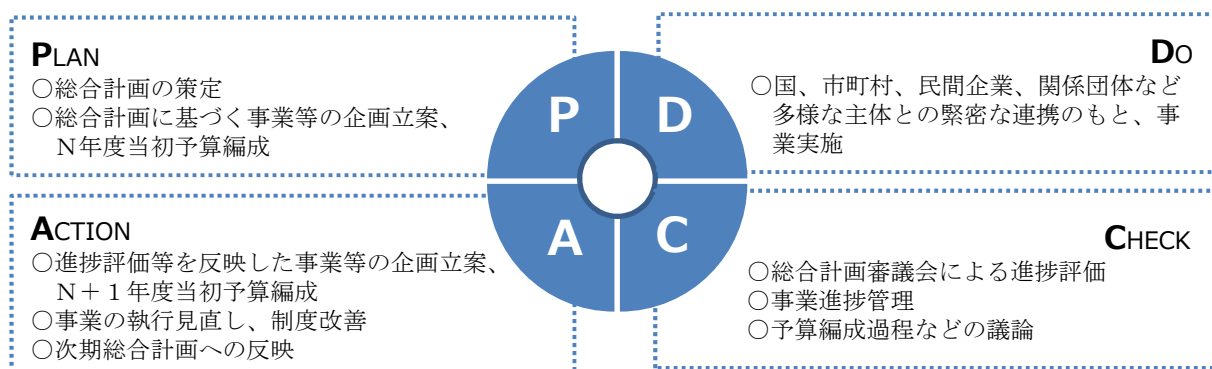
- 本県を更に発展させるため、コロナ禍に伴う価値観や社会構造の変化を前向きに捉えた挑戦を続けるとともに、地域の特性や強みを生かし、潜在力を最大限に引き出すなど、未来を見据えた政策を展開します。
- 急激な人口減少があらゆる局面に影響を及ぼし、各地域が様々な課題を抱える中、その解決を図るため、「スピード感」を持ち、分野横断的な政策を推進します。

4 戦略的な行財政運営

- 県民本位の施策やサービスを提供するため、県職員の挑戦する意識の醸成や働き方改革、県庁のデジタル化等に積極的に取り組み、「挑戦する県庁」への変革を進めます。
- スクラップ・アンド・ビルドに不断に取り組むとともに、本県を大きく飛躍させるために必要な事業には重点的に予算を配分するなど、財源の有効活用や「選択と集中」を徹底します。

5 目標実現に向けた政策の効果検証・改善の徹底

- P D C A サイクルを確実に回して効果検証を適宜実施し、年度単位にこだわらず、改善方策を政策・事業・予算に反映させるなど、目標の実現にチャレンジしていきます。
- 計画の進捗状況については、毎年度、総合計画審議会に報告するとともに、広く県民に公表します。
- 分析・評価に用いる数値目標については、計画期間内であっても、社会経済情勢や検証結果などを踏まえて、柔軟に見直しを行います。



精神的豊かさを志向する時代へのシフト

近年、幸せや満足の度合いを「見える化」する試みが国内外で活発化しています。

国外では2011年に経済協力開発機構（OECD）が、幸福に必要な不可欠な11項目の状況を計測し、日本を含む40か国の暮らしを比較できる「より良い暮らし指標（Better Life Index：BLI）」を公表しました。

国内では内閣府が2021年9月に、国民の生活満足度に影響を与えていると考えられる11分野と、各分野の満足度に関連が深い客観的指標群を選定し「Well-beingダッシュボード」として公表しました。また、2021年6月には政府の各種基本計画等にWell-beingに関するKPIを設定することが閣議決定されるなど※1、幸せや満足の度合いを指標で「見える化」し、それらを政策立案に活用する取組は今後益々重要になると考えられます。

本県が考える「幸せ」と「いばらき幸福度指標」の導入

茨城県は平成30年より「活力があり、県民が日本一幸せな県」を基本理念に掲げ、県民1人ひとりが未来に希望を持つことができ、自身のなりたい自分

像に向かって一步でも二歩でも近づいていけることを「幸せ」と定義し、そのような環境を整備・充実させるために様々な政策を推進してきました。しかし、この「日本一幸せ」が抽象的な概念に留まっていることが課題となっていました。

そのため令和4年度からの県総合計画では、県独自の幸福に関する尺度を作り、本県が考える幸福の実現状況を「見える化」することとしました。それが「いばらき幸福度指標」です。

「いばらき幸福度指標」の選定と県民の幸せ実感

いばらき幸福度指標は政府統計などに基づく客観的指標を中心に構成しています。もちろん幸福度の把握には、個人の主観的な幸福感が重要であることは言うまでもありません。先に述べたOECDや内閣府の指標も、客観的指標と主観的幸福感を組み合わせて作成されています。

しかし、何を幸福と感じるかは一人ひとりの価値観によって異なり、さらに年齢やライフステージによっても変化する多様なものです。ポジティブ心理学を提唱したマーティン・セリグマン氏によると、人は「人生にどれくらい満足しているか」と



いばらき幸福度指標のロゴマーク（案）

いう問いに対し、7割以上が「その時の気分」によって回答を決めるとされています※2。このように、主観的幸福感は把握や経年で比較することが非常に難しいものです。そのため本県では、まずは内閣府の先行研究などを参考に、主観的な幸福感と関連があるとされる客観的指標を多く活用し、幸福度を把握することとしました。

今後はこの指標により「日本一幸せな県」の実現状況を数値化し、全国との相対的な比較を行います。それを基に過去の政策の成果を確認し、これからの政策の方向性を検討していくとともに、指標を通して県民の皆さんに茨城県の豊かさ・暮らしやすさを実感していただき、更なるチャレンジを続けていただきたいと願っています。

※1：経済財政運営と改革の基本方針2021

※2：マーティン・セリグマン著・宇野カオリ監訳「ポジティブ心理学の挑戦 “幸福”から“持続的幸福”へ」（2014年）

